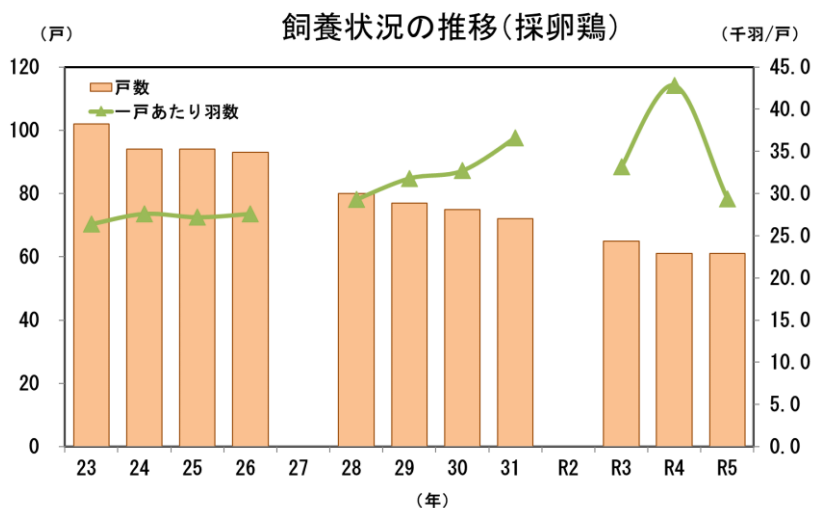


(4) 養 鶏

- 令和4年度の県内の鶏卵生産量は36,900トン（需要量154,333トン）であり、自給率は23.9%となっている。
- 鶏卵卸売価格は、令和2年度は新型コロナの影響により大幅に低迷したものの、令和3年度には復調した。令和4年度秋以降は、全国で発生が相次いだ高病原性鳥インフルエンザの影響により鶏卵の供給量が不足した結果、価格が高騰し、令和5年5月に過去最高値の345円/kgを超えた。その後緩やかに値下がり、令和6年1月に急落し、令和4年2月以来23か月振りに鶏卵価格差補填事業が発動した。
- 県内の成鶏めす1,791千羽のうち、10万羽以上飼養の5戸が67%（1,203千羽）を占め、県内に7割ある1万羽未満飼養農家は121千羽（6.7%）を飼養している。
- 小規模を中心とした県内約8割の養鶏農家では、消費者に鶏卵を直接販売（庭先販売）しているほか、鶏卵を使ったプリンなど商品開発を行い、6次化を進める等、鶏卵の地産地消が盛んとなっている。
- 県養鶏協会では、卵の素晴らしさを伝え、1日2個の卵を食べようという「たまニコプロジェクト」に取り組むなど卵の魅力を消費者へ積極的にPRしている。
- 本県唯一の地鶏である「彩の国地鶏タマシャモ」は地鶏特有の歯ごたえとうま味が特徴であり、令和4年度には素ひな17,600羽が供給された。
- タマシャモと高産卵性の鶏を交配・選抜を行うことで卵も鶏肉も特徴のある新たな卵肉兼用鶏の開発を行っている。令和8年度の本格供給を目指し、採卵鶏農家への普及、ブランド化について検討している。



彩の国地鶏タマシャモ